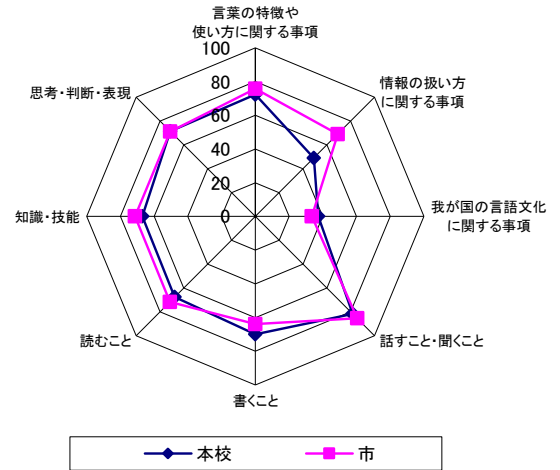


宇都宮市立雀宮南小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	72.3	75.8	77.5
	情報の扱い方に関する事項	49.0	69.1	67.0
	我が国の言語文化に関する事項	37.3	33.5	37.2
	話すこと・聞くこと	81.7	85.5	86.5
	書くこと	69.9	63.9	65.8
	読むこと	67.6	71.6	69.5
観点別	知識・技能	67.0	71.3	72.9
	思考・判断・表現	71.4	71.3	71.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

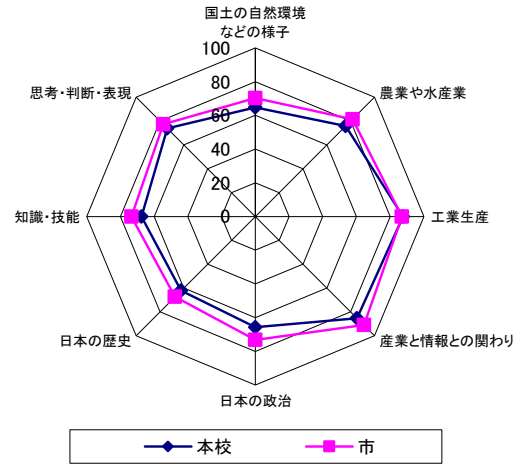
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ○漢字を正しく読んだり書いたりする問題の正答率が高い。 ●敬語を正しく理解して使う問題の正答率が低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・朝の学習や宿題等において、繰り返し漢字練習に取り組んできた成果だと考えられる。 ・敬語の使い方や使う場面について、日常生活を振り返りながら捉えさせることで、尊敬語、謙譲語、丁寧語を使う場面を正しく理解することができるようにする。また、日常生活において、学んだ敬語表現を場面や相手の状況に応じて適切に選択し、使えるように促していく。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●情報と情報との関係について理解し、文章に書かれている内容から原因と結果を整理する問題の正答率が低い。	・必要な情報を読み取り、整理する力を育むために、資料の情報を要約したり、情報を比較、分類、関係付けて図示したりする活動を取り入れていく。国語に限らず、様々な教科において、調べ学習を行う際には、必要な情報を明確にさせた上で調べ学習を行い、必要な情報を正しく取捨選択する力を育てていく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均より高い。 ○和語、漢語、外来語に関する問題の正答率が高い。	・身の回りの語句について、由来や語源を調べる活動を取り入れ、和語、漢語、外来語について理解を深められるようになってきた成果だと考えられる。今後も、和語、漢語、外来語について、身近なものに関連付けながら捉える活動を取り入れていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○話の内容を捉えているかを問う問題の正答率がやや高い。 ●自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える問題の正答率が低い。	・目的意識を明確にした話し合い活動やインタビューの活動を行うことで、自分が知りたい情報を明確にして質問をしたり、相手の質問の意図を正しく理解して答えたりする力を育てていく。
書くこと	平均正答率は、市の平均より高い。 ○文章全体の構成や展開を考えながら、自分の意見とその理由や、予想される反論とそれに対する意見について、二段落構成で書く問題の正答率が高い。 ●目的や意図に応じて、資料から情報を選び、文章にまとめる問題の正答率が低い。	・授業において自分の考えを書く活動を意図的に設けたり、作文を書く際に、文の構成を考えながら自分の意見を明確に述べる活動を取り入れてきたことの成果だと考えられる。 ・目的意識や相手意識を明確にして書く活動を行ったり、自分が書いた文章が相手に正しく伝わっているかを振り返る活動を取り入れたりすることで、資料の情報を正しく取捨選択しながらまとめる力を育てていく。
読むこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○説明文において、文章全体の構成を捉える問題の正答率が高い。 ●説明文において、筆者が伝えたい情報を読み取り、情報を図に整理する問題の正答率が高い。	・序論、本論、結論の構成を捉えながら文章を読み進めたり、接続詞などに着目しながら、要旨を捉えたりする活動を繰り返し行ってきた成果だと考えられる。 ・問と答えを述べている段落や、具体例を述べている段落など、説明文の論の進め方について、図に整理しながら捉える活動を取り入れることで、筆者が伝えたいことや、論の進め方を捉える力を育てていく。

宇都宮市立雀宮南小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

領域別	観点別	本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	64.7	70.3	66.4
	農業や水産業	75.8	81.6	75.3
	工業生産	87.6	87.0	77.7
	産業と情報との関わり	85.3	91.0	81.3
	日本の政治	65.7	73.2	75.3
	日本の歴史	62.3	67.4	68.5
観点別	知識・技能	67.5	73.5	72.5
	思考・判断・表現	73.9	77.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

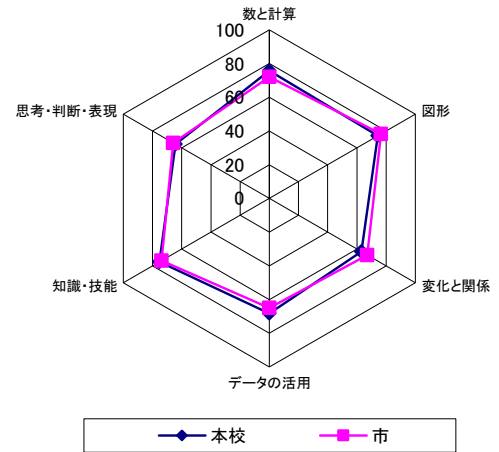
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は、市の平均より低い。 ○日本の周辺の海洋名や季節風について問う問題の正答率がやや高い。 ●近年日本で起きた自然災害の発生場所について問う設問の正答率が低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・世界の大陸と主な海洋など、地理的情報についてイメージをもてるよう地図帳や地球儀を活用してきた成果が表れている。 ・日本で起きた自然災害や、災害を防ぐ取り組みについて復習を行う際には、地図を活用して発生場所を確認することで知識の定着を図る。
農業や水産業	平均正答率は、市の平均より低い。 ○水揚げされた魚の出荷作業における工夫について資料から判断する設問の正答率が高い。 ●米の品種改良について資料を読み取り考えたことを表現する設問の正答率が低い。	・資料から読み取ったことをもとに考えをを広げ、表現することに課題が見られる。資料の読み取りの際には、考えを短い言葉で表現できるよう、読み取ったことをもとに考えてまとめる活動を重視する。
工業生産	平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○自動車の製造工程について問う設問の正答率が高い。 ○日本の貿易の変化について資料をもとに表現する問題の正答率が低い。	・自動車については、児童の生活に深く関わっており、興味関心が高いと考えられる。自動車に限らず、日本の主要な工業生産の学習をする際には、動画資料を活用するなどして、具体的なイメージをもって学習できるようにしていく。 ・貿易について品目の変化と及ぼす影響について取り上げるとともに、自分の言葉で説明する活動を取り入れることで思考力や表現力の向上を図る。
産業と情報との関わり	平均正答率は、市の平均より低い。 ●情報の発信と受信の注意点について考える問題の正答率が低い。	・児童の生活と深く関わっているにも関わらず、情報の扱い方について課題が見られる。社会に限らず、国語や特別活動の時間など他教科との関連を図り、より安全に情報を活用できる力を育成していく。
日本の政治	平均正答率は、市の平均より低い。 ○基本的人権の尊重について問う設問の正答率が市の平均とほぼ同じである。 ●租税の役割について問う設問の正答率が低い。	・全単元を通して、基本的人権の尊重についての理念をふまえながら学習してきた成果と考えられる。 ・税金の使われ方について、日常生活の中で取り上げる機会を設けることで、税の役割を実感できるようにする。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均より低い。 ○弥生時代の理解、織田信長の業績について問う問題の正答率が高い。 ●鎌倉幕府の政治の仕組みの理解をもとに、資料を読み取る設問の正答率が低い。	・時代背景と関連付けて人々の暮らし、功績について学習してきたことが理解につながったと考えられる。 ・鎌倉時代の政治の仕組みについて、用語や意味が理解できていないと考えられる。歴史を学ぶ際に、用語をしっかりと確認する。さらに用語の意味や位置付けまで広く体系的に復習し、理解を深めていく。

宇都宮市立雀宮南小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	75.8	72.1	74.6
	図形	74.3	76.5	76.1
	変化と関係	63.1	67.1	59.7
	データの活用	68.2	65.0	64.5
観点別	知識・技能	75.3	73.8	74.7
	思考・判断・表現	64.3	65.8	61.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

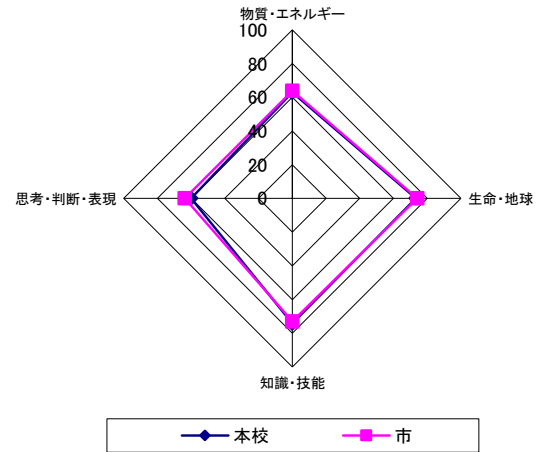
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均より高い。 ○小数のかけ算・わり算、分数のたし算、文字を使った式の正答率が高い。 ●約分を伴う分数の計算、小数のかけ算の文章問題を図に表現したり、立式したりする問題の正答率が低い。	・朝の学習などで、計算問題に繰り返し取り組んできた成果と考えられる。 ・文章から場面を理解し、図に表して、解いていく活動を多く設定する。
図形	平均正答率は、市の平均より低い。 ○円の面積の求積、三角形の外角の大きさを求める問題の正答率が高い。 ●線対称な図形の理解、点対称な図形の理解、合同な三角形の作図する問題の正答率が低い。	・習熟度別学習等で、図形の基本的な理解について、繰り返し学習してきた成果と考えられる。 ・対称な図形の理解について視覚的に捉えられるようにして、様々な類題に繰り返し取り組み、知識の定着を図る。
変化と関係	平均正答率は、市の平均より低い。 ○速さと時間から、道のりを求める問題の正答率が高い。 ●基準量と割合から比較量を求める問題、単位量あたりの大きさを比較し説明する問題の正答率が低い。	・速さの学習について、式が意味することを深く理解する学習を行ってきた成果と考えられる。 ・割合に関する問題、単位量あたりの大きさをもとにして説明する問題に取り組む場面を多く設定する。
データの活用	平均正答率は、市の平均より高い。 ○平均を求める問題、最頻値の読み取り、度数分布表を作る問題の正答率が高い。 ●ヒストグラムを読み取り説明する問題の正答率が低い。	・身近なデータについて代表値を読み取ったり、データを加工する学習に繰り返し取り組んできた成果と考えられる。 ・ヒストグラムの読み方を復習し、散らばりの様子と平均値との関連について説明する活動を設定する。

宇都宮市立雀宮南小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	62.9	63.8	61.6
	生命・地球	73.3	74.1	73.3
観点別	知識・技能	74.2	73.0	71.3
	思考・判断・表現	60.0	63.8	62.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市の平均よりやや低い。</p> <p>○石灰水を白くにごらせる気体は何かを選ぶ問題の正答率が高い。</p> <p>●ろ過のしかたで、正しくないところを指摘する問題の正答率が低い。</p>	<p>・物の燃え方の学習では、実験結果を図や言葉を用いてまとめる活動を繰り返した。自力で結果をまとめた後に、教科書や動画教材で正しい結果を確認し、知識として定着することができた成果が表れている。</p> <p>・実験方法や手順を正しく理解することに課題が見られる。日頃から実験方法や手順について教科書を用いて読解し、方法や手順の要点も含めて実験計画を立てていく活動を取り入れていく。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、市の平均よりやや低い。</p> <p>○月の位置と見え方を調べる実験で、ボールが表すものを答える問題の正答率が高い。</p> <p>●動物の食べ物のもとをたどると、最終的に植物にたどり着くことへの理解を問う問題の正答率が低い。</p>	<p>・月と太陽の学習では、実験セットや動画教材を用いて理解を深めるとともに、問題演習を繰り返し行い、知識の定着を図ってきた成果が表れている。</p> <p>・理科で学習した用語の意味を正しく理解する力に課題がある。大切な用語を覚えるだけでなく、その用語の意味や働きなどを説明する場面を多く設定する。また、学んだことを生活と関連付けて考える機会を取り入れていく。</p>

宇都宮市立雀宮南小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎的な知識・技能の 確実な定着	<ul style="list-style-type: none"> 朝の学習にT・T体制を取り入れたり、習熟別プリントに取り組んだりするなど、個に応じた指導の充実を図る。 家庭学習強化週間を設け、めあてを持って学習に取り組むことで、学習習慣の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の読み書きや基本的な計算について、正答率が高く、基礎的な力が身に付いてきている。 家庭学習において、宿題への意識は高いが、自主学習への取組や、学習時間の十分な確保に課題が見られる。
課題設定の工夫による 主体的に学ぶ力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 児童にとって解決する価値のある課題設定をすることで、学習意欲の向上を図る。 実生活や実社会に関連した課題設定の工夫をすることで、学びを自分事として捉えることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習への達成感や充実感、学ぶ意義や楽しさについて実感している児童が多い。 特に上学年において勉強嫌いが顕著であり、3～6年生については、市の肯定割合を下回っている。 理科や社会等において、学んだことを実際の生活と関連付けて考える力に課題が見られる。
互いの情報や考えを 可視化する活動の工夫による 学びの充実	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを簡潔な文章でまとめる時間や、話し合った内容を簡潔にまとめる時間を設定する。 児童自身の言葉で論述しながら振り返る時間を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝の学習等における短作文の時間や、授業における書く活動の充実により、自分の考えを書く力が少しずつ向上してきている。 資料を正しく読み取り、読み取ったことを基に考える力に課題が見られる。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方針

- 引き続き、学びの必然性や、目的意識をもたせる課題設定の工夫を意識することで、学習する意義や有用感、学ぶ楽しさを感じられる授業を展開できるようにする。また、授業での学びを生活に結び付けていけるような指導を展開していく。
- 話し合い活動に対しては、肯定的に捉えている児童が多いので、今後は話し合いの視点を明確にして話し合う力や、自分の考えを分かりやすくまとめて伝える力を育てる活動を重視し、協働的な学びの質の向上を図ることで、児童が考えの深まりを感じることができるようにする。
- 朝の学習における短作文の活動や、各教科における自分の考えを文章でまとめる活動を通して、書く力の向上を図る。